

北海道浮魚ニュース

平成22(2010)年度12号

2010年8月5日

北海道立総合研究機構 水産研究本部

釧路水産試験場

ホームページ：http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

◎平成22年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報発表される

8月3日に予報文が発表されましたのでお知らせします。

なお、下記のホームページに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

水産庁 URL：[//www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/100803.html](http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/100803.html)

【漁況予報】

予報期間：2010年8月～12月

対象海域：北西太平洋（道東沖から三陸沖）

対象漁業：サンマ棒受網

魚体：大きさは肉体長（≒体長）で表示し、便宜的に大型魚（29cm以上）、中型魚（24～29cm未満）および小型魚（20～24cm未満）と区分した。

① 来遊量

来遊量は前年を下回る。

② 魚体

漁期を通して大型魚と中小型魚の割合の変動が大きい。漁期始めは中小型魚が多いが、その後大型魚の割合は増加する。漁期全体での大型魚の割合は前年を上回る。

③ 漁期・漁場

大型船出漁後の漁場は、択捉島南沖に形成される。三陸沖への南下時期は平年並みで、10月上旬になる。

《解説》

① 来遊量

2003年～2009年の東北区水産研究所による6月～7月の漁期前調査結果から、この時期のサンマの分布は毎年東経155°以東で多いことが明らかとなっている。また、サンマ棒受網船のCPUEは9月～10月にピークとなることから6月～7月の調査時において沖合に分布していたサンマ群が、道東～三陸沖へ来遊し、盛漁期を迎えるものと考えられている。従って、来遊量は漁期前に行われた各調査結果をもとに予測している。

東北区水産研究所の中層トロールによる漁獲調査から、推定資源量は221万トン（暫定値）と前年の351万トンを下回り、推定資源尾数も263億尾（暫定値）で前年（601億尾）を下回った。また、サンマの分布量は例年とは異なり、東経163°以西で少なく、東経167°以東が多かったのが特徴であった。また、釧路水産試験場の北辰丸による流し網調査では、流し網1反あたりの漁獲尾数は9.8尾であり、前年（11.7尾）を下回った。

このように漁期前に行われたいずれの調査も前年を下回る漁獲結果となった。さらにサンマの分布量は例年よりも東寄りであったことから、日本のサンマ棒受網船が例年操業する海域の東沖を南下回遊する群も多い可能性がある。

② 魚体

東北区水産研究所が例年6月～7月に実施している漁期前調査において、調査海域全体での大型魚の割合が高い年は、8月以降のサンマ棒受網漁獲物の大型魚の割合も高くなる傾向がある。

東北区水産研究所の漁期前調査結果から、調査海域全域における大型魚の割合は29%で、前年（16%）を上回った。従って、漁獲物に占める大型魚の割合は前年を上回る。調査海域別の体長組成には大きな違いが見られ、東経160°以西では海域により異なり、東経143°～東経150°では大型魚、東経150°～東経160°では小型魚以下の割合が高かった。また、東経160°～東経180°では大型魚の割合が高く、東経180°以東では東の海域ほど大型魚の割合は低下し、中型魚以下の割合が増加した。釧路水産試験場北辰丸による流し網調査結果によると、東経160°以西では

大型魚の割合は低く（25%）、中型（30%）、及び小型（35%）の割合が高かったのに対し、東経160° 以東では大型魚の割合が高かった（86%）。また、7月に開発調査センターにより行われたサンマ棒受網試験操業結果でも、東経160° 以西では大型魚の割合は低く（29%）、小型魚（48%）の割合が高かったのに対し、東経160° 以東では大型魚の割合が高かった（83%）。

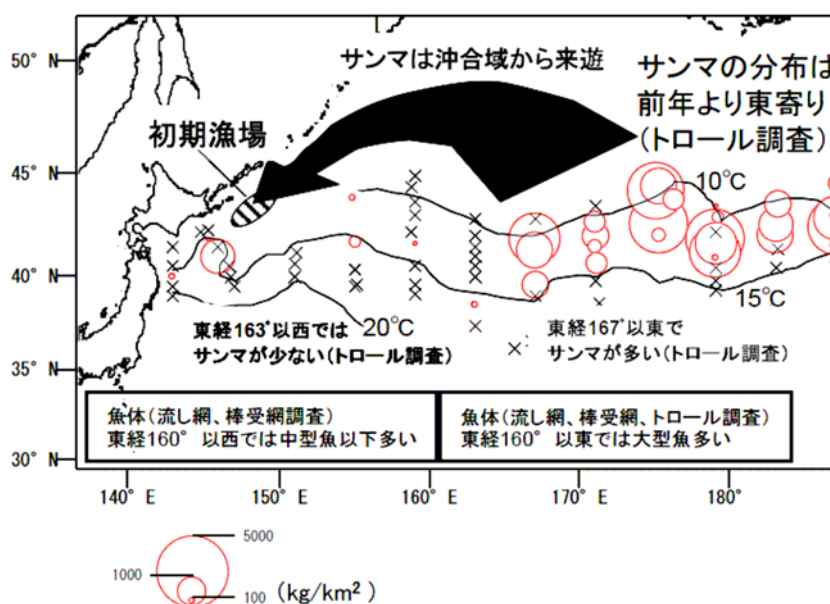
以上の結果より、今年は調査海域による魚体組成の変化が大きいことから、漁期を通して大型魚と中小型魚の割合の変動が大きいと考えられる。漁期始めは東経160° 以西の魚群が来遊し、中小型魚の割合が高いが、その後東経160° 以東からの魚群が来遊し、大型魚の割合は増加する。

③ 漁期・漁場

近年（過去5年間）における100トン以上のサンマ棒受網船解禁直後である8月下旬の漁場での平均表面水温は15℃であり、サンマ漁場と表面水温とは密接に関わっている。今年の道東海域の表面水温は7月下旬現在では前年と比べて高めで推移しており、気象庁の海面水温・海流1か月予報(7/31～8/31)によると、8月下旬の道東海域における表面水温はやや高めになると予測されており、8/20の予測水温図では、表面水温15℃の等温線は択捉島南部から東へ延びている。これらの水温予測から100トン以上のサンマ棒受網船解禁（8/15）後の初期漁場は前年（色丹島南沖）より北東の択捉島南沖に形成される。また、漁期前調査結果から、東経163° 以西ではサンマが非常に少なかったことから、漁場への来遊は遅れる可能性がある。

また、今年の場合、7月下旬現在道東沖には明瞭な暖水塊が見られず、8月～9月の見通しでは親潮第2分枝の張り出しが”かなり南偏となったのちやや北偏”で推移することから、親潮第2分枝に沿って沖合をサンマが南下する可能性もある。

各機関の漁期前調査(6月～7月)結果のまとめ



【海況予報】

予測期間：2010年8月～9月

対象海域：北西太平洋

親潮第1分枝の張り出しは極めて南偏となったのち、平年並みで推移する。
近海の黒潮は南偏で推移する。

《今後の見通し（8月～9月）》（注）FRA－JCOPEシステムによる結果

- ①近海の黒潮の北限位置はかなり南偏～極めて南偏（北緯35°20'以南）で推移する。
- ②三陸沖の暖水塊は停滞し、常磐沖の暖水塊は西進する。
- ③親潮第1分枝の張り出しは極めて南偏（北緯38°40'以南）となったのち、平年並みで（北緯40°10'～40°50'）となり、三陸近海に親潮第1分枝に連なる冷水域が形成される。
- ④親潮第2分枝の張り出しはかなり南偏（39°～39°20'）となったのち、やや北偏（北緯40°30'～41°）となる。
- ⑤津軽暖流の下北半島東方への張り出しはやや弱勢～やや強勢（東経142°30'～143°20'）で推移する。

なお、海況の今後の見通しについては、下記のホームページを参照下さい。

東北区水産研究所（東北海区海況予報）

<http://tnfri.fra.affrc.go.jp/kaiyo/kaiyoubu/predict/index-j.html>

（文責：釧路水産試験場資源管理部、TEL：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225）